

カリウム (K) 吸着剤のより良いアドヒアランスのために -患者自身による薬剤選択の試み-

長崎腎病院

○崎山成美 米田千恵子 熊博和 久保純子 江藤りか 丸山祐子 原田孝司
船越哲

【背景】

近年様々な K 吸着薬が発売され、選択肢が広がっている。本薬はほぼ毎食服用せねばならないため、その服薬率は患者の服薬習慣に大きく影響されると考える。

【目的】

各種 K 吸着薬を患者自身に選択させた場合の服薬率向上の程度を検証する。

【対象および方法】

K 吸着薬内服患者 51 名を対象に、適切な IC の上同意を得られた群のみ、観察期間 12 週で 4 種のカリウム吸着薬（カリメート・カリメート経口液・ケキサレート DS・アーガメイトゼリー・）を全種類試用させ、最も内服しやすい K 吸着薬を服薬開始した。その後の各 K 吸着薬に対する評価、血清 K などのパラメータ推移を調査する。

【結果】

研究前の血清 K 値については、同意群 24 名では非同意群に比べて有意に低く、同意群のうち現行の K 吸着薬からの変更群 15 名では非変更群との差はなかった。患者自身が選択した薬剤に変更した群 9 名では血清 K 値は、有意に低下しており、また内服率も高かった。

【考察】

現行の K 吸着薬への関心度が、服薬率や食事管理と関連している可能性がある。透析導入時から患者に選択させることは有用であると考えられる。